

電気・計装・情報通信設備やコンピュータシステムのエンジニアリング、設計・施工・整備などを手がける(株)日鉄エレックスは、2010年11月、同社北九州事業センター内に「FA開発センター」を竣工した。自動車向けなど二次電池(充電型電池)需要が急速に拡大する中で、その製造に欠かせない充放電検査装置システムの組立・出荷試験と技術開発が一体となって進められる体制が整った。

二次電池需要の拡大に対応 「(株)日鉄エレックス「FA開発センター」



FA開発センター外観



竣工式で挨拶する吉田社長

日鉄エレックスは、製鉄所の電気・計装設備の設計・施工・メンテナンスなどで培った技術力をもとに、1988年、工場の加工・組立・搬送・検査・保管などの機能を自動化するファクトリーオートメーション(FA)事業に進出。FA用の装置やシステムの設計・製作を行っている。

92年にPCを基調とした各種試験装置の設計・製作を開始し、93年には、小型リチウムイオン電池の検査装置分野に進出。電池の性能評価を行うサイクル試験システムと、電池の基本性能を検査しランク分けを行う充放電検査装置システムを提供し、この業界でトップシェアを確保している。

現在、二次電池は、電気自動車やプラグインハイブリッドカーなどの車両用をはじめ、産業機械用や、太陽光・風力発電などの蓄電用を中心に需要が急速に拡大し、それに伴い、充放電検査装置システム、燃料電池評価システム(写真1)など電池の製造に欠かせない検査システムに加えて、車載用電池に向けた急速充電器(写真2)の需要も増大している。

従来、日鉄エレックスは、それらシステムの出荷前検査、商品改良、および研究開発を北九州学術研究都市など



写真1 燃料電池評価装置
家庭のコジェネから自動車のフェセルセルテスターまで、商品化を見据えた開発に取り組む



写真2 急速充電システム
電気自動車などの急速充電システム。充電装置本体の液晶画面により容易に充電状況がわかる

北九州市内の近傍施設で行ってきたが、効率性と市場対応能力の向上を図る観点から、これらを一体化して進めることができる「FA開発センター」の建設を進め、2010年11月に竣工した。この建設により同社は、温室効果ガス低減に貢献する技術開発または製品をつくる企業を対象に北九州市が2010年度に創設した「環境・エネルギー技術革新企業集積特別助成金」の適用第1号となった。

FA開発センターでは、今後、技術競争力をさらに向上させ、高い品質保証レベルを維持しつつ、お客様との技術交流の促進とさらなる連携強化を図っていく。

吉田博年社長は、竣工式と同時に行われた記者会見で「FA事業はお客様からの要求が厳しく競争も激化しており、市場で勝ち抜くには技術革新が常に求められます。『FA開発センター』を当社のFA事業における技術開発の中心機能と位置付けて、電池関連事業の強化と事業創出に向けた取り組みを推進し、スピーディに商品開発を行っていきたいと思います」と抱負を語った。